



『法然上人行状絵図』第三十四卷第四段(総本山知恩院蔵)

香林

こうりん

香林山 無量寺
機関紙 第9号
発行者 堤俊海
香林編集委員会
久留米市本町8-4
TEL0942-32-3010
FAX0942-32-2701

シンポジウム 「心の痛み」のいやし

<高齢化社会への佛教的アプローチ>

日時 平成9年12月13日(土曜日)
午後1時開場 5時閉会
場所 都久志会館 福岡市天神
参加費 1,000円

基調講演 奈倉 道隆先生(龍谷大学教授、医学博士)
コーディネーター 藤本 浄彦先生(仏教大学教授)
パネリスト 下村恵美子(宅老所よりあい代表)
吉田 隆幸(九州労災病院作業療法士)
他

主催 福岡教区浄土宗青年会
共催 九州ブロック浄土宗青年会、全国浄土宗青年会
事務局 北九州市小倉北区清水4-5-2 円応寺内
電話093-561-1951

どなたでもご参加いただけますが、参加申込書等の準備ができるのが、9月ころになります。

よい子の集い

参加者募集

小学生を対象とした1泊2日の修養会です。
浄土宗寺院の若い和尚さんが指導します。

日時 平成9年7月22~23日
集合7月22日午後2時 解散23日午後3時
場所 宗真寺(八女郡黒木町)
主催 筑後浄土宗青年会
参加資格 小学生男女(定員60名)
持参品 鉛筆、夏休みの友、ノート、洗面具、
雑巾、水着(ぞうり)、薬、バスタオル
タオルケット、パジャマ等

会費 3,000円
内容 おつとめ、ともしびの集い、花火
山登り、川遊び、ラジオ体操等
申し込み締め切り 7月7日
無量寺に申込書があります。

平成九年度法事年回表

一周忌	平成八年に亡くなられた方
三回忌	平成七年に亡くなられた方
七回忌	平成三年
十三回忌	昭和六十年
十七回忌	昭和五十六年
二十五回忌	昭和四十八年
三十三回忌	昭和四十年
五十回忌	昭和二十三年

詳細は本堂に掲示しています。

念仏講
法然上人の御命日に寺の本堂にてお経をあげ念仏を唱えて上人を忍ぶとともに、お念仏に精進させていただく講中で、浄土宗の寺院では古くから行われています。

毎月二十五日午前十一時より
(変更の場合あり)
十四日会
毎月十四日(八月はお休み)午後七時より本堂にてお経の練習とお念仏の会です。十四日会は浄土宗開宗の日(三月十四日)と善導大師の御命日(三月十四日)にちなんで行っております。

浄土宗の歴史や教義、お経の解釈、などもしています。

浄土宗新聞

を読みましょう

毎月1日発行 紙面12ページ 1部年間購読料 1,440円
ご自宅へ直送します。(送料込み)

お申し込みはハガキに住所、氏名、年齢、電話番号、菩提寺名を書いて次のところへどうぞ
購読開始号()月号から希望するかも記入してください。
〒105 東京都港区芝公園4-7-4 浄土宗東京事務所内
浄土宗新聞編集室 電話03-3436-3700

法然上人のおことば

御法語より

酬因感果のことわりを、大慈大悲の御心のうちに思惟して、年序そらにつもりて、星霜五劫におよべり。しかるに善巧方便をめぐらし給えり。

しかも、われ別願をもて、浄土に居して、薄地低下の衆生を、引導すべし。その衆生の業力によりて、うまるといはいはば、かたかるべし。われ、すべからく、衆生のために、永

劫の修行をおくり、僧祇の苦行を、めぐらして、萬行萬善の果徳圓滿すべし、自覚覚他の覚行窮満して、その成就せんところの、萬徳無漏の一切の功德をもて、わが名号として、衆生にとなえしめん。衆生もし、これにおいて、信をいたして、称念せば、わが願にこたえて、うまるとことをうべし。
第六(五劫思惟)

ともに生き 皆ともに往き ともに会う



平成10年、浄土宗を開かれた法然上人が、浄土宗の根本宗典である「選定本願念佛集（せんぢやくほんがねんぶつしゅう）」を選定されて800年を迎えます。

名号はこれ万徳の帰する所なり

「選定集」第三章には四十八願の価値、特に第十八願の念仏がいかに勝れており、絶対的な価値があるかが説かれている。先ず四十八願全体の価値については、法蔵菩薩が「その心寂靜にして、志所著なく、一切世間によく及ぶものなし」というすぐれた菩薩の状態で、五劫という時間をかけて、二百一十億という数の仏国土の中から選びぬいたという完全無欠な価値が示される。このような前提の上に立って、それでは何故（衆生が往生するための行）として、念仏が選ばれ

たのかが述べられる。その答えが有名な「勝・易」の念仏である。勝れており、しかも易行だからというのである。これに対して他の諸行は劣っており、しかも難行だということ。

その勝れた意味を述べる言頭にあるのがここに掲げた一節である。名号の中にはあらゆる功德がおさめ尽くされているという意味である。法蔵菩薩は願を立ててから数えきれないほどの修行を重ね、あらゆる善根を積む。それが完成されて（阿彌陀仏）になられたのである。

したがって、あらゆる修行の結果が阿彌陀仏にそなわっているということである。

さとの内容ばかりでなく相好や光明や説法などの外へはたらきもすべて（阿彌陀仏）におさめ尽くされている。

名号が万徳所帰である点はずでに源信の「往生要集」などに述べられている。

しかし、それを平等往生の易行性と合わせて勝れた行とした

のは法然上人である。

その大前提に称名念仏が選択本願の行であるという強い裏づけがあるの言うまでもない。

（丸山）

日本語の中の仏教

引導

生きている人間相手に、法を説いて教えに引き入れ、仏道に導くことをいったもので、凡夫（平凡な人間）の迷いをさまさせる手段を意味していた。

それが、やがて葬式の時、坊さんが死者に対して成仏するように贈るはなむけの言葉となり、各宗によりちがった所作を伴う儀式の一つとなったのである。厳粛な作法とともに、呪文のような法句を授けられるのが普通である。

しかし、これらの法句は、もともと葬儀の参列者である遺族や知人にこそ聞かせるべき内容であることが多いから、そのつもりで聴くことが望ましい。

仏事のQ&A

法然上人百四十五箇条問答より

心が乱れる時は？

Q 一心に阿彌陀仏を念じれば、心が十分に改まらなくても、修行をしていなくても、念仏だけしていれば浄土に生まれることができるのでしょうか。

A 心が動揺するのは普通の人の常ですから、その動揺を止めようとするのは無理なことです。ただ、一心によくお念仏なされるなら、罪は消え、必ず往生できるでしょう。心に妄想が起きることより重い罪でさえ、念仏さえ申しておられれば消えてしまいます。

（第七条）

お念佛と私

片桐 晴美

花咲く春とは言えまだ花冷えのする平成六年三月、私の最愛の息子は三十五才の若さで西方浄土に召されて逝きました。

今年三年目、これも佛様の供養になればと思い、つたない筆をとっております。

かえりみえますれば、アレレギー体質改善にと飲んだ薬が原因で薬害を受け疑筋無力症となり闘病生活十五年と言つ長い年月辛く苦しい日々の末亡くなりました。

思えば大きな夢と希望に燃え、大学に入り私もこの子の成長を楽しみに親馬鹿乍ら夢ふくらませていたのですが、薬害とは残酷なもので日増しに筋力、握力が衰え外出もままならず、人生にとって楽しめるべき青春時代を病魔と闘いつつ母の私にかけた苦勞をねぎらい親孝行の一つも出来なかつた事を詫びつつ三

十五才で短い生涯を終えました。貴重な人生の日々を何一つ楽しみもなくどんなにか辛く苦しかつた事が、幸うすかつたこの子がふびんで胸張り裂けんばかりの悲しみて、食事もとれず、体重も七キロも落ち、まさに悲しみのどん底に落ち込んでしまいました。

又、その六年前に主人も脳出血から半身不随の身となり癌に犯され十年間で十三回の入院を繰り返し息子の身を案じつつこの世を去りました。私も主人と息子、二人の病人をかかえ不安と闘いつつもそれを生き甲斐にして、まさに捨て身の看病の日々だっただけに、息子の死はすっかり私から生きて行く気力さえうばってしまい一人になると涙涙の日が続きました。丁度

その頃、法要に副住職様に来て戴く毎に十四日会の集まりにおいでになりませんかと暖かいお言葉を戴き何一つ佛教の事等知らない私でしたが、毎月本堂にて良き皆様方と御一緒に副住職様の御法話を教えて戴き共に御

念佛を唱えて行くうちに心の平静さを保つ事が出来る様になりました。

息子もやっと苦しみから逃れて楽になれ、これで良かったのだと思えるようになれました。これも副住職さまのお導きがあったればこそと深い感謝の気持ちで一杯でございます。現在は御念佛にまさるものはないと信じ、朝夕佛様に向かい阿彌陀如来様、法然上人様、善導大師様に幸うすかつた息子が極楽浄土で心安らかに成佛できますようお導き下さいませとお経と御念佛を唱え、御先祖さま、亡き主人、息子がきつと見守って呉れてるだろう家族の健康に感謝、感謝で毎日何事にも念佛を唱える毎日でございます。

又、現在テレビ、新聞等に報道されている薬害王国となつた日本、の腐敗社会と薬害に依つて私の息子も含め多々の人々が苦しんでおられるのを見るにつけ悲憤に耐えられません。親としてまだまだなすべき事があつたのではないか、親の怠慢ではなかつた

かとわが身の不甲斐なさを責める気持ちもあります。三年の月日が流れましたが一日足りとも息子の事は脳裏から離れる事はありませんが、不思議と朝夕佛前に向かい読経と御念佛を唱え又十四日会に皆様と共に参加させて戴く度本堂におわします歴史の深い阿彌陀如来様の前に正座していると心の落ち着きを覚える今日この頃でございます。

今後も又何もわからない私ですが副住職様のお導きに従い南無阿彌陀佛の念佛を御加護に感謝し乍ら信心を深めて行きたいと思っております。

御念佛を唱える事は佛さまだけなく自分自身をも救うことである事を副住職様に教えて戴き今日の私がある事を感謝致しております。

最後に一人でも多くの方々が十四日会に参加され皆様方と一緒にお経や御念佛を唱え、又楽しい語らいのひとときを過ごされる事を心より願っております。有り難うございました。合掌